

## 1. 活動報告（事務局 記）

7月3日（木）中国電力（株）宇部電力所さんによるボランティア草刈が、ありました。所長の中村さん 総務の柴田さん他、午前20名、午後26名の活躍があり須賀河内川内の葦を刈っていただき、すっかり川はきれいになって水の流れもよどみ無くスムーズに流れはじめました。中電の皆様には大変ご苦労おかけしました。

7月5日（土）梅雨空の中、今日の作業はビオトープや蓮田の草取りでした。雨が降らなくて良かったです。

7月6日（日）カブト虫小屋の修理を行いました。

7月19日（土）山口県環境生活部との協働事業意見交換会 会長他6名参加

同 「昭和山遊ロード二俣瀬」整備作業、昭和山遊ロード二俣瀬にある天堤に注意看板をたてました。

同 里山自然観察隊第4回、本日のお題は「野草の葉っぱの形」でした。夏休みに入り、球技大会やキャンプなどの行事のせいか、参加隊員は6名でしたが、倍の人数の大人達と熱心に観察をしました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

7月24日（木）下松市農業委員会 松本さん他ご一行

案内役 原田マ他

9月18日（木）上宇部ふれあいセンター成人学級ご一行

案内役 2～3名未定

行事

7月24日（木）藤山婦人カルチャーセンタにて 里山ビオトープについて講演 講師 田村会員

8月3日（日）作業

8月23日（土）作業（蕎麦の植付）と、里山自然観察隊

## 3. ビオトープ関連（連載ビオトープ近辺の案内）

“珍説フタマタセ その九、海軍さん(2)” (車地 吉富 壮介 記)

男たちは川へ走り、女たちは家から家へ伝え、ロープ竹竿はしご...手当たりしだい川岸へ運んだ。村で唯一の車“男山のサイドカー”も雨の中を出ていった。電話も放送もマイカーもない、人間は走るしかなかった。雨は小ぶりになっていた。川の水は早く、駆けつけた誰よりも早く、二人を押し流す。自転車で持世寺、沖の旦まで飛ばしたが...、濁流を見つめるのみ。瓜生野に“K”という婆さんがいた。男どもが「流れた、流された」と騒ぐから、つられて来てみたが、誰もおらん。川土手で休んでいたが...「帰(い)のうか」と立上がった。誰か呼んだ気がして足を止めたが、また歩き出したとき、確かに声がした。川の方から...。水につかった藪の中に顔があった。「あんた誰かの?」「わしじゃ、わしじゃ...」海軍さんだった。鉄橋下(しも)のカーブした所、ゆるぎとうまで行ってない。婆さん懸命に引っぱったら、もう一人ついて来た。婆さんたまげて「えんこがついて来た」と思うたと。さあ、この大手柄どう知らせたら...。100M90秒で走ったが、部落の手前で息が切れた。あえぐ息の下、悲鳴をあげた。聞きつけた二、三人、車力を挽いて駆けつけ、意気揚々と引揚げた。村に歓声が広がっていった。この件あって、海軍さんの株は益々上がった。なにせ「厚東川の大水に敢然と挑み、わが身だけでなく、老人つれて戻って来た」と。しかし、しかし、ひとの噂も七十五日、その上大東亜戦争、玉砕、特攻隊、果ては敗戦、帝国海軍の名は墜ちた。今「おるか?」とも言わない。

(これが吉富壮介さんの最後の遺稿となりました。ずっと連載頂きましたことに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。)

ゆるぎとう 二俣瀬区瓜生野と厚東区関口との境で現在県企業局の厚東川水橋から二俣瀬寄りでは昔は厚東川と絶壁との間に道があり峠になっていたところ。ゆるぎ峠の意味

## 4. 会員の声

二俣瀬ビオトープの会に参加して (学正会員 井上倫道 記)

私が二俣瀬のビオトープ会員となって、1年3ヶ月が経ちました。この間に2回、ビオトープ湿地の植生調査を行わせて頂きました。植生調査では、会員の皆様から植物に関する知識を得ることで、多くの草花を知ることができました。ビオトープには、アザミ、オオイヌノフグリ、オオユウガギク等、普段は目にするが私自身が名前の知らないものが多く自生していました。特に、自生するサギソウやトキソウは希少種であることからあまり目にすることのない種ではありますが、ビオトープの作業に関わることでこれら希少種を自然のままに見ることができたということに素直に喜びたいと思います。それと同時に、このような希少種を絶やすことなく保護しているビオトープの会員の方々の努力は並みならぬものであると思います。また植生ではないのですが、ビオトープには数多くの昆虫が生息しています。中でもトンボは非常に多くの種類を見ることができます。ビオトープが自然と一体となっている証拠ではないでしょうか。これもまた会員の方々の努力であると、私は思います。最後に、この会の会員とさせていただいておりますが、まだまだ参加することが少なく、作業に参加していない間に湿地の植生が大きく変化しているということも多々ありました。参加してもビオトープの変化にもあまり気づかないこともありました。これからはビオトープの作業にできるだけ参加し、参加したときはビオトープの変化、そして自然の変化を見て、感じていきたいと思っております。

## 5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

5月24日 六畳岩(船岩と思われる)にて犬の散歩 PM3:00 同時に昼食、その後善和に入り山本利夫さん方前(石川先生宅)男岳登山口の標柱前を通過谷合に沿って下る。一里塚、昭和山登山口分基点を通過、途中新幹線陸橋下を通過 12秒後下りの新幹線が福岡目指してえらいスピードで行った。びっくりした。谷を左手に見て下って来た谷が開けて他の整地がよくなって来たなと思ったら農家のご夫婦を二人見た。側にバイクがあり谷の中の畑で何か仕事をしておられたが、道を下っていると下から見上げておられて目が合った 印象的で久しぶりの人に会った感じがあり。ここより下流は車の運転も楽になり持世寺の風呂に行こうと思う。犬と一緒に日本版フットパスを車で行く。 M・S 生

6月7日 かごしまからきました。偶然立ち寄りしました。素晴らしい所ですね。イトトンボの夫婦が水中で卵を産みつけている所を目にして感動しました。驚きました。 こういう場所がこれからも残っているといいですね。 無記名  
その他子供さんの絵がたくさんありました。

## 6. 会よりの連絡事項

- (1) ひざ癒し行事での会計で徴収会費以上に予算オーバしましたので一般会費より約一万円強を使用させていただきました。
- (2) 脱会会員のお知らせ。この7月6日に入会いただいた古川卓也さんがやはり参加が困難で迷惑がかかるので入ら無かった事にさせていただきたいとのご連絡が7月17日入りました。お知らせします。
- (3) 特別連絡 : 田んぼにウンカが大量発生しました。近くの田んぼにも悪影響しますので農薬を最低限散布します。無農薬がモットーですが、こればかりはわが道を行くと勝手なことは出来ませんので了解願います。  
また例年に無く草の成長が早いため更に皆様のご協力を御願いするため8月は3回参集願いたくお知らせします。予定として8月3日(日) 8月9日(土) 8月23日(土)になります。

## 7. 編集後記

6月18日 吉富壮介様が御亡くなりになられました。退院されてお元気で居られると思っていましたのでびっくりしました。[えんぼと、たんぼの始発駅]すてきな名前の発案者。会報への[連載ビオトープ近辺の案内]も、二俣瀬を隅から隅まで知り尽くされた吉富様ならではの語りで楽しく読ませていただきました。生の声で子供たちにも話し聞かせてほしかったです。珍しい猪鍋も味あわせていただきました。又、そばの収穫で楽しみにしていたそば打ち、前日に入院され、手ほどきを受けられず期待していたように打てなかったそば、今年はとっていました。ビオトープをつくり始めた頃、工事でいつも、器用に上手に楽しくチェーンソーの音を響かせ汗を流しておられた頃のお顔が思い出されます。心より御冥福をお祈りします。 (松本 フデ子 記)